第11期札幌市図書館協議会
第３回会議

議　　事　　録

日　時：2026年９月29日（火）午後２時開会
場　所：札幌市中央図書館　３階　講堂

１．開会

●事務局（根尾運営企画課長）

定刻となりましたので、ただいまから第11期札幌市図書館協議会第３回会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

事務局を担当する中央図書館運営企画課長の根尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のご出席は８名でございます。

欠席する旨のご連絡をいただいているのは、安部委員、北口委員、玉村委員、藤原委員の４名です。

出席者数は、札幌市図書館条例施行規則第27条第2項に規定するとおり、委員の過半数を超えていますので、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

では、まず議事に先立ちまして、本日の資料について確認させていただきます。机上配布資料として、

・次第（第11期札幌市図書館協議会第３回会議　概要）

・座席表

・資料１：「こども本の森札幌・北大」利用状況の報告

・資料２：「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の取組状況について

をお配りしております。

なお資料１、資料２のいずれも、お送りしたものから内容に一部追加や変更がございますので、本日お配りしている資料をご覧いただきますよう、お願いいたします。

不足している資料がございましたらお知らせください。よろしいでしょうか。

また、議事録作成のため、録音の必要がありますので、お手数ですがご発言の際にはマイクをご使用いただきますようお願いいたします。

なお、図書館協議会の会議は原則公開となっておりますため、取材で写真を撮影する場合がございます。不都合がございましたら、事務局までお申し出ください。

それでは開会に当たりまして、中央図書館長の立野よりご挨拶を申し上げます。

２．中央図書館長　挨拶

●事務局（立野中央図書館長）

中央図書館長の立野でございます。

皆様、本日はお忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の議題は先ほど申し上げましたとおり、２点ございます。

１点目は８月１日に開館いたしました「こども本の森札幌・北大」の利用状況の報告でございます。前回の会議でも少し触れさせていただきましたが、今回はこども本の森の紺野館長から、８月、９月のイベントの状況や、来館者の状況について、詳しくご報告をさせていただきます。

２点目は現在の「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の令和７年度の取組状況についてご報告をさせていただきます。今年度は、重点施策を中心に概要版を作成いたしました。本日はこちらの資料でポイントを絞って、皆様にご説明をさせていただければと思っております。

委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、開会にあたっての私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３．議題

●事務局（根尾運営企画課長）
それでは議事に移りたいと思います。
ここからは、山本会長に進行をお願いいたします。

○山本会長
ありがとうございます。山本です。どうぞよろしくお願いいたします。
館長からもご説明がありましたように、本日の議題は２件となっております。
まず議題１『「こども本の森札幌・北大」利用状況の報告』について、事務局からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
こども本の森札幌・北大の館長の紺野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。資料に基づきまして、開館から８月末、そして９月現在までの運営実績を報告いたします。
利用状況につきまして、８月中の総来館者数は6,753名。その内訳は、予約来館が3,864名、一般（予約なし）が2,576名、イベント及び視察関係が313名でございました。
定員（予約枠）に対する実際の来館者数は100%を超える稼働となっておりまして、非常に好調なスタートを切っていると思っております。
予約状況の属性ですが、８月のWeb予約枠は計4,301件の申込みがございました。年齢構成は、大人が 2,666名（62%）、小中高生が1,103名（25.6%）、幼児が532名（12.4%）であり、大人の利用割合が比較的高くなっております。居住地別では、札幌市内在住者が約80%、市外が約20%と、バランスよく利用されていると考えております。なお、予約者のうち約10%が実際には来館せずという結果でありました。
定員（予約枠）に対する実際の来館者数が100%を超えておりますが、運用としましてじっくり読書をされる方以外に、短時間の視察・見学や、また観光客の方で予約無しで立ち寄られる来館者もいらっしゃいまして、現場の混雑状況を適宜把握し、判断しながら支障の無い範囲で入館を認めております。その場合、「見学」という名札をかけていただきまして、実際に予約等で読書をされている方とは区別がつくような形で入館し、10分程度見ていただくような対応を行っています。そのため一時的に定員を超えるような実績となっております。
９月についても同様の状況が続いておりまして、先ほどご説明しましたように、予約キャンセルや途中で帰られた来館者の空きの部分について、現場の状況を判断しながら入館を認めている日があるため、９月につきましても100%を超える実績となっております。
特に、16時からの回は２時間枠ですので、１時間程度で退館する方と、一方で17時頃から来られる方もいることから、適宜、現場の判断で入館を認めるケースがございます。
そのため、当初は９月19日頃に来館者１万人を達成すると見込んでおりましたが、実際には２日ほど早まりまして、９月17日に来館者１万人を達成するという結果になりました。

続いてイベントの実績でございます。８月には、最初のイベントとしまして「夏の夕暮れプレミアム朗読会」を８月８日に行いました。アナウンサーの森さやかさん、それから絵本セラピストの佐賀のり子さんに登壇いただきまして、絵本の朗読と解説、関連した本の紹介などを展開いたしました。参加者は26名となっております。
８月11日には「モビールづくりワークショップ」ということで、絵本作家すずきももさんに実際に教えていただくようなワークショップを行い、２回で合計42名の参加でした。
８月17日の「今日からきみも考古学者！レクチャートーク」というイベントにつきましては、北海道大学との初の公式連携事業ということで開催しました。参加は25名となってお り

ます。
　スタッフによる定例の「絵本読み聞かせ」も８月９日及び８月22日に実施しまして、９日は18名、８月22日は15名の参加となっております。
　なお、先ほどお話した「レクチャートーク」は子どもだけでなく同伴の保護者からも熱心な質問が寄せられるなど、極めて好評でございました。
　９月につきましても、９月26日に北大の地域系サークル「ほこくり」とのコラボイベント「北大生といっしょに！よみきかせ＆本探しビンゴ」と題したイベントを開催しました。北大生の方たちが企画・進行を担って進めたイベントになります。前半は「北大生の思い出の絵本」の読み聞かせということで、当館の手前に中央ローンという芝生の場所があるのですが、レジャーシートを持って行って北大生が絵本の読み聞かせをしたり、後半はお題に合う本を館内で探すビンゴゲームを行いまして、これも大変子どもたちに人気で、盛況のうちに終了しております。
　私からの報告は以上でございます。

○山本会長
　ありがとうございました。ただいまのご報告の内容を含め、いかがでしょうか。皆さん既にこども本の森札幌・北大に行かれた方が大勢いると思うのですが、ご質問ご意見等ございましたら。大澤委員どうぞ。

○大澤委員
　大澤でございます。質問と、コメントということで２点ございます。
　まず１点質問です。８月合計の内訳をいただいたのですけれども、もちろん見る限りは大人の方が多い印象ですが、この内訳は当初の目標や狙いとしては妥当な結果になったのかどうか。あるいは何かずれがあったのか、それによって今後のやり方について、もう少し考えていくといったポイントがあればお聞きしたいと思いました。
　もう１点はコメントですけれども、やはり北大の中にある図書館ということで、先生方や学生とのコラボレーションはとても良い取組だなと思いましたので、もし10月や、10月以降も今後、こういった事を行うという予定があればぜひお聞きしたいと思いました。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　ありがとうございます。運営について、想定から大幅に違うということではございませんでしたが、やはり夏休み期間中は親子連れでお子さんと保護者の方が一緒に来られるということであったり、また平日の日中などはやはり大人の方の来館が今のところ多くなっております。
　今後は、学校の団体申込ですね。例えば幼稚園や、小学校でいうと特別支援学級の団体などの申込をいただいておりますが、今後さらにメインターゲットの小・中学生の入館を目指していくということで、こちらからも学校に働きかけていったり、様々来ていただけるようなイベントや取組を行ってまいりたいと思っております。
　それから２点目について、コメントをいただきましてありがとうございました。
　北海道大学との今後の連携で申しますと、留学生の方に子どもたちに自国語で読み聞かせをしていただいて、それから子どもたちとグループになってお話いただくようなイベントを企画しておりますし、また北海道大学の先生のお力添えをいただきながらといったイベントも企画しております。今年中にもまだいくつか企画しているところでございます。

○大澤委員
　ありがとうございます。留学生の読み聞かせ、すごく良いなと思いました。
　過去にもこの協議会の議題で、例えば海外から来られたお子さんが、図書室を活用してもらえないかとか、居場所になれば良いのにな、という話もあったかと思います。
　地域の中で暮らす海外の方の居場所といった取組にも繋がるかもしれないので、ぜひ頑張ってほしいと思います。

○山本会長
　どうもありがとうございます。北大側の対応としては、今色々なアイディアや提案を、附属図書館でもお受けしているところです。
　私の方に個人的にお話が来る場合もありますし、本の森の方に直接お話が行っている場合もあるかもしれませんので、少し交通整理を行いたいと思っています。附属図書館、学内の体制をきちんと整えて、こども本の森との調整などルール化して対応していくための動きを始めているところです。
　本当に学内で色々な方々がおりまして、例えばこども本の森をベースにしながら、さらに大学の中に子どもたちを誘導できるようなイベント、今回の考古学のイベントもまさにその通りだったのですが、そういったイベントも含め色々なことをお考えの先生方が沢山いらっしゃいます。
　今後はこども本の森とも相談させていただきながら、安全なイベントを、連携して行っていくための体制を整備していきたいと考えています。
　他にいかがでしょうか。

○杉田委員
　ご説明ありがとうございました。
　中学校の教諭をしていまして、学校としての立場でお伺いします。
　多くの中学校や小学校では札幌市内での自主研修をしていまして、班ごとで色々な施設を周ります。例えばオリンピックミュージアムですとか、それから大通の裁判所ですとか、テレビ塔ですね。
　その構成に今後、こども本の森を入れることは可能でしょうか。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　ありがとうございます。中学校の方々にも、ぜひご利用いただきたいと思っております。自主研修のお話も何度か耳にしております。北海道大学総合博物館もございますので、そちらとこども本の森とを見ていただく研修もあろうかなと思いますし、また司書の仕事を学ぶということで、秋頃の予定でいくつか中学校からお話がございますので、そういった内容も進めていくことができるかと思います。

○杉田委員
　ありがとうございます。

○山本会長
　その場合は一般と同じ予約が必要なのでしょうか。それとも一般とは別の予約という形になるのですか。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　学校からの申込の場合は、まず問い合わせフォームでお話をいただいて、私どもの方から団体の申込書をお送りし、提出をいただきまして枠を押さえる形になります。
　人数によっては貸切になる場合ですとか、色々ございますので、１か月前までに申込書をお送りいただく形となります。

○山本会長
　杉田委員からも、ぜひその辺りも含めて周りの方におっしゃっていただければ。
　杉山委員、お願いします。

○杉山委員
　ふきのとう文庫の杉山です。
　資料を見ますと大体200名超えの方が来館されているかと思います。私ども、ふきのとう文庫は小さな文庫ですが、200名となると大変忙しくなります。それから私どもの方は時間制限や予約制度は無くて、実態としては午後３時から閉館の４時までの間は、返本と貸出が集中します。
　そこでこども本の森は今後も、この時間の割振は続けていくのかお伺いします。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　当面は、今の予約制を続けていくことになるのかなと思っております。他のこども本の森の場合は予約制を平日、夏休み冬休み以外は外しているところもあるのですが、今後も状況を見てと思っております。
　今の状況を拝見しますと、皆さん90分を60名という人数でゆったりと過ごされているというか、90分きっちり読書されている方が多い様子ですので、その辺りの状況を見ながらと思っております。

○佐藤委員
　ライターの佐藤です。
　内覧に行かせていただきまして、非常に美しい素敵な空間でした。
　私からは３点ありまして、内覧会で少し感じた点です。基本土足ということで、すごく美しい季節に開館されたので、今のところ支障が無いかと思うのですが、冬場ですね。結構、棚の一番下にも本があったので、冬場の対策は何か考えていらっしゃるか、伺いたいのが１点。
　それと、サービスで館内の本を建物の外に持ち出して中央ローンで読む、そういう事をやっても良い、例えば一筆書けば良いというお話があったので、実際に８月、９月で行った

方がいたかがもう１点。
　３点目は学外、例えばNPOで子どもの教育に関わっているような方が、きっと空間も素敵なので、ここでイベントしたいという方から私に問い合わせも有るのですが、今は内部でイベントを個々に回していく方向なのか、外からの持込企画が可能かどうかを教えてください。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　冬期間ですが、融雪マットを北大さんの方で、ウッドデッキやスロープの所に今後設置していただくことになっておりますので、そこで一旦は雪をほろってから入ってくる形になります。
　実際そのような季節になって入館されたときにも考えていく面はあると思っておりますが、先日の大雨のときも館内にモップを用意しておりまして、館内に入った際はすぐスタッフの方で拭いたり、他にも１日に３回清掃に入っていただいておりますので、今のところは綺麗な状態を保っているかなと思っております。
　それから館外への持出ですが、既存の他の本の森でも館外への持出を行っておりまして、そこまで件数は無いと伺っていたのですが、当館は結構ございます。やはりウッドデッキですとか芝生のところで読みたいという方がいらっしゃって、一番多かったときは１日に15件ございました。持出をされて、外で読書を楽しんでいらっしゃる方、一冊読んで戻してまた持って行って、という方もいらっしゃいました。
　なお、持出については氏名などは伺っておらず、本の番号を控えている状況です。
　それから今後のイベントにつきましてですが、年内についてはほぼ、予定しているものがございます。
　今後、内容についてご相談しながらと思っておりますが、まずは北海道大学さんと連携を検討ですとか、今予定しているものを少し続けていく形になると考えています。

〇斎藤副会長
　斎藤です。沢山の利用が来ていると思うのですが、小中高の中で、特に高学年というか、中高生の利用はどれくらいでしょうか。数字は無いと思うのですが、館長の感覚ではいかがでしょうか。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　全体に対する、ということでよろしいでしょうか。

〇斎藤副会長
　できれば、小中高の子どもたちの中で中高生がどれくらいいたか、という事をお聞きしたいです。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
　ありがとうございます。80%が小学生です。あとは中学生、高校生です。高校生などは通学の合間に寄って来られる方がいたと聞いております。

中学生についてもイベントだけではなく、また保護者同伴でなくても来られている状況にございますが、今後例えば中学校、高校の図書局に働きかけるなどして、より来ていただけるようにしたいと思っております。

○山本会長
ありがとうございます。他はいかがでしょうか。皆さん関心が高いというところですが、よろしいでしょうか。
予約システムは最初少し不具合が有ったと聞きましたが、今は順調に稼働しているという理解でよろしいですか。

●事務局（紺野こども本の森札幌・北大館長）
おかげさまで順調に稼働しております。

○山本会長
冬場の問題は北大の方でも、事前に課題として認識しておりまして、建物の維持は北大で行う部分でどうするかという話で、特にピンの付いた靴を履いてきたときには木が傷つきますので、どうしようかという話も以前からしておりました。
ただ実際、冬のシーズンを迎えないと分からないところがありますので、経験させていただきながらということで、紺野館長、よろしいですよね。
他はよろしいでしょうか。
それでは引き続き皆さん、どうぞご利用をいただければと思いますので、よろしくお願いします。中学校でもぜひご利用を拡大していただければと思います。ありがとうございました。

それでは議題の１つ目は終わりとさせていただきまして、次は「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の取組状況についてです。
まず、資料に基づいて事務局の方からご説明をよろしくお願いいたします。

●事務局（高橋企画担当係長）
企画担当係長の高橋です。議題２「令和７年度 さっぽろ読書・図書館プラン2022」の取組結果についてご報告申し上げます。お手元にお配りしました、「令和７年度 さっぽろ読書・図書館プラン2022」概要版に沿ってご説明させていただきます。
なお例年、本協議会におきましては、取組結果の全体版を資料として用いておりましたが、本日お配りした資料は、取組結果の中から重点施策を中心に抜粋して掲載した「概要版」となっております。例年お配りしておりました取組結果全体版につきましては、後日、協議会委員の皆様にデータで送信させて頂くとともに、札幌市図書館ホームページにて公開を予定しております。
なお、お配りした資料上、各項目の記載にございます、達成度の説明が漏れてしまっております。大変申し訳ございません。それぞれ解説いたしますと、Ｓが年度当初の目標を大きく上回る成果を得たもの、Ａが年度当初の目標どおりとなったもの、Ｂが年度当初の目標と

比較して概ね達成できたもの、Ｄが年度当初の目標と比較してあまりできなかったもの、Ｅが年度当初の目標と比較して全くできなかったもの、となっております。
それでは資料に沿って、４つの基本方針ごとの主な取組結果をご報告いたします。

概要版の１ページ目をご覧ください。
基本方針１「市民の読書環境の充実と情報活用の支援」についてでございます。
重点施策である「④新たな読書機会の創出」に関しては、まず、取組番号８「電子書籍サービスの推進」を行いました。障がいや育児・仕事などにより来館が困難な方へのサービス充実を図るため、電子図書館の利用促進に努めました。 令和７年度の具体的な結果といたしましては、PRチラシの配布による周知のほか、「小学生向け読書活動推進事業」に合わせた調べ学習に使える読み放題パックの導入や、乳幼児から高校生までを対象とした読み放題パックを新たに購入いたしまして、予約待ちせずに同時に何人でも読めるコンテンツを増やすことで、小中学生に対する電子図書館の利用促進を図りました。
今後は、小中学生や日頃図書館に来館しない層に対して、SNSやイベントを活用し、効果的なPRを行うことで電子図書館の利用を促進するとともに、コンテンツについては、引き続き読み放題パックの収集や定期的に新たな特集を組むなどしてサイトを充実させ、利用者満足度の向上を目指します。
次に、ページ右側をご覧ください。取組番号10「他施設へのアウトリーチに関する調査・研究」におきましては、図書館の利用機会が少ない市民へのアプローチの一環として、外部行事「交通資料館まつり2025」に出展いたしました。ブースではクイズやテーマ別展示を行い、1,754名の方にご来場いただくなど、積極的な周知活動を展開いたしました。今後も他の施設等と連携し、出張展示や各種資料の配布等の普及啓発活動を継続して、図書館の利用機会が少ない層へのアプローチを強化し、サービスのさらなる周知と利活用の促進を図ります。

続いて、２ページ目をご覧ください。
基本方針２「子どもの読書環境の充実と読書活動の支援」についてです。
重点施策「⑯子どもが読書に関心を持てる働きかけ」の、 取組番号38「読書習慣を身に付けるきっかけづくり」におきましては、「小学生向け読書活動推進事業」を従来の「進路」に加え、「雪」と「福祉」の３つのテーマから選択できる形に再編し、５校の参加を得ました。また、読書ノート達成事業『めざせ！こども館長』の実施場所を市内図書館に加え、地区センターや区民センター図書室へ拡大し、より身近な場所で読書意欲を育める環境を整えました。さらに、えほん図書館で通年開催いたしました「図書館デビュー」には、計20回で延べ1,321人の保護者とお子様にご参加いただきました。
続きまして、ページ右側をご覧ください。取組番号40「子ども向け行事の実施」です。春のビンゴまつりやせかいの絵本おはなし会、ぬいぐるみのおとまり会、一日司書体験など、発達段階に応じた体験型行事を実施いたしました。
また、子どもの読書への興味関心を広げる取組として「よむくじ」やPOPコンテストを実施しました。
さらには、子どもたちがテーマに沿ってコメントを書き込める参加型の交流掲示板である、幼児・小学生向け「tane」や中高生向け「sora」を通じ、継続的な情報発信に努めました。

各地区図書館の主な取組例についても下部に載せておりますので、ご覧ください。

続いて、３ページ目をご覧ください。同じく重点施策「⑯子どもが読書に関心を持てる働きかけ」としての取組である、取組番号41「乳幼児向け図書の展示やブックリストの充実」及び42「小中高生向けのブックリストの情報提供」についてです。中央図書館においては、クリスマスやハロウィンなど年中行事や春・夏・秋・冬など、幼児の興味・関心に合わせたテーマ展示や超大型絵本リストの更新・配布、図書館ホームページでの学年別・テーマ別ブックリストの掲載、中高生向けの多彩な企画展示などを実施しました。また、えほん図書館においては、季節の行事のたなばた、ハロウィン、クリスマス等をテーマにした展示、札幌市電子図書館での年齢別・テーマ別ブックリストの提供を実施するなど、成長に応じた読書支援を継続しております。

こちらにつきましても、ページ下部に各地区図書館の主な取組例を載せておりますので、ご確認ください。

続いて、４ページ目をご覧ください。

基本方針３「全ての市民の学びと情報の拠点としての環境整備」でございます。

市民の課題解決支援として、取組番号57「専門機関との協働による無料相談窓口の実施」を図書・情報館にて行いました。日本政策金融公庫や法テラス札幌などの外部専門団体と連携し、無料相談会を計157回開催、171件の相談をお受けいたしました。また、連携セミナーと合わせた特設展示も好評を得ております。

次に、右側の重点施策「㉕地域の生涯学習拠点としての役割の検討」に関わる取組といたしましては、取組番号64において、中央図書館の「暮らし応援棚」での行政PR展示や、市民向け講座「犯罪被害を防ぐ～特殊詐欺の被害に遭わないために～」を開催いたしました。

続いて、５ページ目をご覧ください。

取組番号62「地域の生涯学習の場としての地区図書館に関する調査・研究」では、生涯学習センターと連携し「さっぽろ市民カレッジ（ご近所先生企画講座）」を中央図書館および各地区図書館にて開催したほか、令和11年度に移転を予定している清田図書館の機能向上に向けたフロア検討を進めました。

また、右側の取組番号63「図書館データベースのPR」についてですが、中央図書館においては、レファレンス対応の際に役立つデータベースを積極的に案内し、利用につなげたほか、SNSを活用した商用データベースのPRを実施しました。

図書・情報館においては、新聞・雑誌の記事や論文、法令、企業・業界情報など、23種のデータベースを提供し、商用データベースの講座やデータベースを活用したマーケティングセミナーを実施いたしました。また、関連セミナーにおいて、図書・情報館の活用方法の一環で、データベースの活用を紹介するなど、積極的な周知に努めました。

続いて、６ページ目をご覧ください。

基本方針４「持続可能な図書館サービスを見据えた図書館運営」についてでございます。

取組番号72「広報の充実」ではInstagramやXなどを活用した広報を実施したほか、令和８年８月の「こども本の森 札幌・北大」開館に向け、図書寄贈の募集、クラウドファンディングの実施等について、広報さっぽろやSNS等を活用して広報を実施しました。ヤマザキマリ氏

の名誉館長就任についてはプレスリリースを行い、新聞・TV等で報道されました。
　続いてページ右側をご覧ください。取組番号75「職員研修の実施」では読み聞かせや接遇、装飾デザイン等の集合研修・オンライン研修を実施し、職員の資質向上を図りました。今後も、専門的な図書館サービスのレベルアップを図り、今後の図書館活動の中核を担う人材を育成するため、引き続き派遣・オンライン研修や外部講師による専門的な研修を行っていきます。

　続いて、７ページ目をご覧ください。
　重点施策「㉘将来も継続できる図書館サービス」におきましては、利用者のマナー向上を図るために取組番号69「適切な資料取扱に関する啓発及び取組」を実施いたしました。具体的には、貸出票レシート（日限票）のレイアウトを見直し、返却期限が視覚的に伝わりやすい工夫を行ったほか、HP上での啓発活動に取り組みました。
　また、ページ右側の取組番号70「広告導入についての検討」におきましては、直接的な広告収入ではありませんが、図書館の収入につながる新たな取組としまして、「こども本の森札幌・北大」の開館及び将来にわたる持続的な運営に向けた寄付金を募集するため、クラウドファンディングを実施し、目標金額500万円に対し、766万円のご寄付をいただきました。今後も引き続き、図書館が収入を得る手段について他都市事例の収集を継続します。

　私からの説明は以上となります。
　冒頭でもお伝えいたしましたとおり、より詳細な「取組結果全体版」および「取組結果地区図書館版」につきましては、後日、協議会委員へメールでデータをご提供させていただくとともに、札幌市図書館ホームページにて公開いたしますので、あわせてご確認いただけますと幸いです。
　ご清聴ありがとうございました。

○山本会長
　どうもありがとうございました。
　それでは今、大変丁寧にご説明いただきましたので、個別にというわけではなく全体の中で特に質問や、気になる取組がございましたら、取組番号をご発言いただいてのご質問をお願いします。

○木藤委員
　まず取組番号８番で、電子書籍サービスを中心に。令和８年度目標に小中学生や日頃図書館に来館しない層に対してSNSやイベントを活用し効果的なPRを行うとありますが、小中学生に対して例えばデモ体験のような取組ですとか、学校と連携して出前授業といったことをやった方がより効果的なのかなと。来館しない層に対しての効果があるのではないかなという、一つコメントです。
　それと、前回会議のときに、確か電子書籍は約１万点あるとお聞きました。そのコンテンツ、構成というか、例えば文芸や児童書ですとか、どれが多いですとか、分かれば教えてください。

２点目は、取組番号57番、専門機関との協働による無料相談窓口の実施についてです。専門機関との連携セミナーを３回で実施したということですけれども、内容について教えていただきたいです。

次に取組番号64番、行政情報の活用等に関する検討ですけれども、行政情報の発信ということで、後で出てくる取組番号69で貸出票、日限票のレイアウトを見直したとありましたが、別の図書館で、レシートの裏面に行政情報を発信している例がありまして、情報提供です。

それから、取組番号63番、図書館データベースのPRです。データベースがあるということは知っていたのですが、実は今日初めてここに来て確認しました。やはり周知の強化が必要なのかなと思いました。

取組番号70番、広告導入についての検討ということでは、先ほどの貸出票、レシートに例えば広告を載せるですとか。また、他都市事例の収集を継続するということですけれども、私が見つけた事例では大阪市の方で、ネーミングライツを行っています。また、横浜市で、先ほど申しました貸出票の裏に広告を載せている例があります。あとはさいたま市で広告付きマットを導入していたり、宇都宮市で雑誌スポンサー制度を行っています。事例の紹介になります。以上です。

○山本会長

ありがとうございました。沢山のコメントをいただきましたが、事務局の方からそれぞれいかがでしょうか。

●事務局（岸峯利用サービス課長）

利用サービス課長の岸峯でございます。色々とご提案をいただきましてありがとうございました。

電子書籍の種類、コンテンツの構成ですが、基本的には文学が一番多く、社会科学や技術・工学等、それに歴史関係や児童書などが多くなっております。基本的に図書館で所蔵している本と同じような構成です。

●事務局（樋口調整担当課長）

調整担当課長の樋口です。取組番号57番、専門機関との協働による無料相談窓口の実施に関連して、連携したセミナーの事例を紹介いたします。例えば北海道よろず支援拠点、経営の色々な相談を受けてくださる機関なのですけれども、ここと連携しまして、図書・情報館で持っているデータベースで、例えばある地域を入力しますと、その周辺の購買力であったり、年齢層などが分析できるのですが、この使い方講座をデータベースの利用促進も兼ねて実施しております。

その他、広告収入につきましても情報提供をいただき、ありがとうございます。広告収入はこの報告にもありますとおり、札幌市としても課題として考えてございます。過去に具体的に検討を行いましたものに雑誌スポンサー制度があるのですが、実は札幌市の図書館の所蔵雑誌は寄贈が大半を占めておりまして、新規開拓が難しいということで、当時進展に至らなかった経緯がございます。引き続き、いただいた情報も踏まえ検討を行ってまいります。

○木藤委員
　新しいものが、すぐ寄贈されるということでしょうか。

●事務局（樋口調整担当課長）
　今取り扱っている雑誌の大半が、もう既に寄贈により賄っているものということです。

○木藤委員
　わかりました。

○山本会長
　他にはいかがでしょうか。

○大澤委員
　１点ご質問と、１点コメントさせていただきます。
　一つが、取組番号75番の図書館の職員研修の実施です。
　こうした研修は、若い司書の方やスタッフの方が参加しているのでしょうか。と言いますのも、私は普段ミュージアムにいることが多いのですが、なかなか若い学芸員の方が参加できない、日々の業務に追われて参加が難しいといった話をよく聞きます。こうした職員研修に、特に若い方が参加できているのかという質問です。
　もう１点コメントですけれども、取組番号70番で先ほど木藤委員も触れておりましたが、ミュージアムでよく聞く取組で、学芸員さんの出前講座みたいなものがあります。博物館に研修や案内で来てもらうだけではなくて、博物館からぜひ出ていって皆様の中に入っていくという事を、やっているところが最近増えてきたなという印象があります。
　特に企業様の社内研修という形で、例えば道外から沢山の新入社員が来るような会社であれば、札幌市や地域のことを知ってもらうための研修として実施、ということもできるかもしれない。
　また、先ほどのデータベース関連で言えば、例えばコンサルやマーケティングで地域のことを知りたいという点で、こうしたデータベースを活用できますよといった紹介ができるかもしれないと思いました。
　最初の方でご紹介いただいた取組番号10番、他施設へのアウトリーチにも繋がる話かと思います。以上です。

●事務局（岸峯利用サービス課長）
　ご提案いただきまして、ありがとうございます。
　最初のご質問、図書館職員の研修実施の件ですけれども、委員がおっしゃったように、やはり若い人や、通常業務が忙しいということで参加できない方はいらっしゃるのですが、そういったことを想定しまして、動画で見ていただくといった工夫は行っているところです。

●事務局（樋口調整担当課長）
出前講座についてもご意見をいただきまして、ありがとうございます。
札幌市全体の取組として、各部局の施策を紹介する出前講座というものがありまして、図書館としても項目のエントリーを行っております。
講座の内容は引き続き検討しながら、市民の皆様のニーズに合ったものにしていきたいと考えてございます。

○大澤委員
ありがとうございます。

○山本会長
他はいかがでしょうか。

○杉田委員
まずは２ページの取組番号38番、テーマ別の読書活動推進事業ということで、進路に加え、雪と福祉という、とても中学生にふさわしい内容だと思ったのですけれど、小学校から高校まで総合的な学習の時間でテーマを決めて探究学習を行っておりますので、例えばヒグマや自然環境をテーマにしていただいたりですとか。色々な連携をしながらテーマを増やしていただくと、授業に役立つかなと思っております。
次に３ページの取組番号42番、ブックリストの情報提供ということで、ぜひ中学生の長期休暇前に教えてあげたいなという事で、その辺り連携していければ良いかなと思いました。
それから、４ページの取組番号57番のレファレンスなのですが、こういったものはAIでもできない素晴らしいサービスだと思っております。本も紹介をしていただける。
先ほど探求学習の話もしましたが、探求学習の授業で中学生が利用することは可能なのでしょうか。１学年に150人いれば150人が全て使うわけではないと思うのですが、一斉に依頼が来ても可能なものでしょうか。
また、これは思いつきで大変申し訳ないのですが、取組番号72番のSNSを活用した広報関係で、図書館の職員の方にブックトークをしていただいて、それを中学生に見せる事ができたらなと思いました。すごく興味を持つと思いましたので、そうした事ができたら面白いなと感じました。

●事務局（樋口調整担当課長）
図書・情報館でいうと、座席の都合もありますので100人規模ですと少し厳しいかなと思ったのですが、想定されているのは図書・情報館などのデータベースを使った学習、ということでよろしいでしょうか。

○杉田委員
むしろ、レファレンスは図書館に行かないとできないものでしょうか。
自分自身、以前メールで利用したことが１度ありまして。ピサの斜塔は何度傾いているの

か、という内容でした。大量に来るとやはり難しいでしょうか。

●事務局（岸峯利用サービス課長）
　やはり大量に一斉に来ると、残念ながら対応に少々苦慮する事はあるのですけれども、例えば個々人が学校の宿題で、夏休み中に調べものをするときに図書館に来ていただいて、こういう資料が無いですかという質問はお受けできますので、そういったことでPRしていただけると助かるかなと思います。大量ですと、受付はさせていただくのですが、回答が遅れてしまうことはあります。

○杉田委員
　わかりました。適切に使わせていただきます。

○山本会長
　どうもありがとうございました。
　ブックトークは確かに面白いなと思います。もしかしたら大学でも協力できる部分があるのかなと。学生や教員が中学校向けに、ブックトークのご提供など出来るかなとも思います。少しまた別の切り口ですけれども、検討できれば。ありがとうございます。
　他はいかがでしょうか。

○大澤委員
　少しコメントです。取組番号40番の子ども向け行事の実施につきまして、ぬいぐるみのおとまり会ですけれども、ずっと良い取組だなと思っていました。
　はじめは2007年頃、アメリカから広がった取組が日本に入ってきたということで、実はミュージアムでもすごく最近広まっている取組ですので、個人的にはぜひ続けてほしいと思っています。
　最近、特に若い世代、と言っても20代や30代40代でも、ぬいぐるみが好きな人が実は多くて、子ども向けだけにしてしまうと少しもったいないかなという気持ちも、正直あります。大人でも旅行に連れて行ったりされますよね。子ども向けだけにするともったいないと思いつつ、ぜひ続けてほしいと思っています。
　まず図書館のことを知ってもらうイベントと、さらに深めていくイベントと恐らく２種類の段階があると思うのですが、ぜひ今後とも頑張ってほしいと思います。以上です。

○山本会長
　ぜひご検討いただければと思います。他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
　それでは色々ご意見をいただきましたけれども、達成度の評価について特にご異論は無かったと理解しておりますので、この内容で確定させていただきたいと思います。ありがとうございました。
　それでは、関連して事務局の方から何かございますか。

●事務局（樋口調整担当課長）
皆様今日はお疲れ様でした。
次期さっぽろ読書・図書館プランの策定時期について、情報提供させていただきたいと思います。
第11期図書館協議会の委員の皆様には就任直後から、今年度末で現行プランの計画期間が終了するため、次期プランの策定に向けて計画案の審議に積極的にご意見いただいたところです。
現在、私どもの調べによりますと国においても、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改定に向けて検討しているという情報があるのですが、実はこの検討のスケジュールでしたり、終わりの時期が未定という状況である事がわかりました。
私どものプランも、こうした国の動きをある程度見据えて作っていく必要があると考えておりまして、国の検討状況を踏まえ、次期プランの検討期間を延長したいと考えております。
このため当初、今年度末を予定しておりました次期プランの策定時期が、次年度以降にずれ込む予定になっております。
この件につきましては引き続き情報収集いたしまして、適宜、協議会委員の皆様に情報提供のうえ協議させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○山本会長
今の点、特にご意見は無いでしょうか。仕方がないことかとは思います。
そうしますと次回協議会は、連動しての予定はありますか。

●事務局（樋口調整担当課長）
現時点では、未定と考えていただきたいと思います。

○山本会長
ありがとうございます。
今日全体を通じて、何か改めて皆さんからご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局の方にお戻ししたいと思います。よろしくお願いします。

●事務局（根尾運営企画課長）
本日もお忙しい中お集まりいただき、ご意見をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして第11期札幌市図書館協議会第３回会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

以上